

## 瀋陽駐在員事務所

### 札幌市・瀋陽市友好都市提携 35 周年

今年、札幌市と瀋陽市が姉妹都市提携 35 周年を迎え、去る 11 月 10 日から 13 日まで秋元札幌市長以下、企業関係者など計 62 人が瀋陽市を訪問しました。同訪問団の滞在期間中には、友好都市提携 35 周年を記念した式典・祝賀会、環境セミナー、両市市民の交流プログラムなどのイベントを開催しました。



瀋陽市環境保護局が主催した環境セミナーでは、札幌・瀋陽双方の企業が自社商品や技術をプレゼンテーションしました。10 月に瀋陽市側企業が既に札幌を訪れ札幌側企業と接触済だったため、実際に初期商談が始まり当事務所で商談のサポートを引き受けた所もあります。訪問団代表者たちは遼寧省共産党委員会副書記、瀋陽市共産党委員会書記曾維市、瀋陽市市長潘利国氏と会見し、両市には経済貿易・文化・観光など多方面での協力は大きな潜在力が存在しており、特に今回の記念イベントをきっかけに、環境保護産業などの面での協力を強化したい意向を示しました。

瀋陽の日本総領事によれば、日中の都市間交流事業で共産党の書記（中国では、職階として市長よりも上位です）が出てくるのは珍しいとのこと。瀋陽側の関心の高さが伺える行事となりました。

張 璐

## ユジノサハリンスク駐在員事務所

### 【新たなスタート】

10 月にユジノサハリンスクに着任いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

「北海道センター」が 10 月に竣工し、高橋はるみ北海道知事を代表とする訪問団とともに、当行から笹原頭取がサハリン入りし、知事会談をはじめ様々な交流イベントが開催されました。サハリン州コジェマコ知事は、「遠くの親戚より近くの隣人」というロシアの諺を紹介され、北海道に対する強い思いを語られました。そう、ロシアと日本は地理的にとても近い国なのです。その「北海道センター」に 11 月に移転しました。テナント第一号です。様々な場面で日本との違いを実感する日々ですが、引越も例外ではありません。荷物を何で運ぶか？当然ダンボールとっていたら大間違いで、袋です。すぐに穴があきますが破れそうで意外と破れません。備品は自分達でラッピングします。引越業者は運搬のみです。かつての日本もそうだったような・・・。



引越作業をする現地スタッフ



北海道センター外観

新オフィスは 6 階建ての 4 階で 44 号室です。ロシアでは縁起が良い数字だそうです。ちなみに私は 44 才です。2009 年 3 月にオープンした当事務所も約 6 年半が経過し、北海道とサハリンの強いつながりを象徴する新しい場所で、両地域を結びつける活動に邁進してまいります。皆さん、ぜひ一度いらして下さい！

達田 暢

## ウラジオストク駐在員事務所

### 【ロシア極東初のカジノ特区】

11月11日、沿海地方アルテヨム町にある「沿海地方」カジノ特区において「ダイガ・デ・クリスタル(結晶のトラ)」施設の正式な開設式が行われました。現在、同特区はロシア国内において唯一稼働中のカジノ拠点で、実質的な営業は今年7月に始まりましたが、正式なオープン・セレモニーは準備等の理由で11月になったのです。

現時点では建物1件からしか成り立っていないのですが、同建物は床面積が2,000平米と非常に広く、スロットマシン、ルーレット、ブラック・ジャックやバカラのトランプゲーム用テーブルの機械のみならず、ロシア国内でも市販されていない珍しい酒類を扱っている外食店、1泊最低2万円以上の部屋が用意されているホテル等も整備されています。

このようなカジノプロジェクトは今までのロシア極東では実現例がなかっただけに、同特区の運営会社は世界各地からカジノ施設運営に精通するオペレーターを誘致したり、スタッフ全員が2言語以上の外国語を話せるようにするなど準備に余念がありませんでした。ロシア国内の経済状況が厳しさを増している中、この特区はウラジオストク空港に非常に近いことから、中国人をはじめとした外国人の利用客が見込まれ、成功の可能性が高いと期待されています。



イワン・モズゴヴォイ

## カシコン銀行

### 「バンコクマラソンに見るタイ人の国民性」

11月15日深夜2時から、毎年約4万人が参加するバンコクマラソンがスタート致しました。私はハーフマラソンで参加したため、午前4時のスタート時間ですが、夜中とはいえ、気温は約30℃、人生初のハーフを走る私にとっては非常に過酷なマラソンでした。

観光地として有名なワット・ポーの王宮近辺をスタートし、一時的に封鎖された高速道路を走り、再度、王宮まで帰ってくるというコースですが、12km程度は走ったかなという地点で6kmの表示。残りが6kmなのだろうという理解をし、走り続けると、次の表示が8km、なぜ増えるのだろうと疑問を抱き、次の12kmの表示を見た時点で疑問は確信に変わりました。走り終え、帰宅後完全にダウンした状態でネットを調べると、なんとハーフマラソンの距離が27.6km(本来は21km)ありました、ごめんなさいとの公式発表。

タイ人の基本的性質として、一般的に言われているのは3S(Sabai サバーイ、Sanuk サヌック、Saduak サドゥアック)というのがあります。それぞれ、気持ちよく、楽しく、便利に、という意味ですが、この3S状態を好む傾向があります。様々な場面でこの傾向が見られますが、バンコクマラソンでの距離間違いもなかなか起こり得ないハプニングを楽しめたという点で、私自身もタイに馴染んできたのだろうと感じたイベントでした。



バンコクマラソン スタート直前の様子

伊藤 彰浩

## 日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

### 真の少子高齢化対策は、婚活支援？

中国で1979年から続いている「一人っ子政策」ですが、共産党第18期中央委員会第5回総会で、来年春に廃止されることが決定しました。これにより、昨今問題視されている少子高齢化の加速に一定の歯止めがかかることが期待されていますが、それとは別に注目したいのが、中国の離婚率や独身者の増加です。

中国民政部が発表した「2014年社会サービス発展統計公報」によると、中国全土における離婚率は、2003年以降、12年連続で増加傾向にあります。北京の離婚率（当該年度の結婚と離婚者の割合）は40%に達するなど、その影響は無視できないものとなっています。

そして、最近話題となっているのが、「剩女」という現象です（結婚適齢期に達しているにもかかわらず、結婚していない女性を表す言葉）。某結婚相談所の調査によると、北京の独身男女比は男1に対し女4であり、その中でも、女性は30～35歳の方が大部分を占めています。このような女性は高所得の男性と結婚を望んでいますが、そのような男性は25歳前後の女性を好むため、両者のニーズがマッチングしないようです。

中国では、一人っ子政策の影響による、「いびつな男女比」（中国の男女比は世界で最も不均等）という問題も抱えており、少子高齢化対策は、日本以上に深刻なものなのかもしれません。



中国の結婚相談所サイト  
（約1.3億人が会員登録しています）

小笠原 宅麻